

最も重要な前提 (マルコ 8:14-21)

神様が人類に向かって一番知らせたいことは何でしょうか。それはイエスはキリストという喜びの知らせです。なぜなら人間はみな、自分では、また人間の力では絶対に解決不可能な霊的な問題を抱えて生きているからです。その目に見えない霊的な問題が表に現れることで、精神また肉体、人間関係などが破壊されることとなります。そして、生活が崩壊し、家庭内のトラブル、社会のトラブルなどに発展して行くようになります。また、墮落して犯罪を犯したり、戦争を仕掛けたりするところに行くこととなります。これが隠れている霊的な問題が表に現れたということです。しかし、世の中ではその目に見えない霊的な問題が何かを知らないの、表に現れている問題と格闘し、どうにかしようとしてもがきます。それを指して宗教、あるいはヒューマニズムと言います。解決のためにもがくということは悪いことではありませんけれども、霊的な問題には及ばないし、霊的な問題が何かまったく無知なので、最終的にはよりひどい状態に陥るしかありません。なので神様はもがいて頑張りなさいとは仰らないで、最初からキリストを約束されました。私たちが抱えている問題は、実は蛇による悪魔のしわざなので、女の子孫として蛇の頭を踏み砕くキリストが希望になります。そのキリストを約束されました。また、ご自分が犠牲のいけにえになって罪を贖うことが求められるのでキリストを約束されたわけです。それから、インマヌエルとなって神が私たちとともにおられる道であり、真理であり、いのちであるキリストを約束されました。神様はずっとこのキリストのほかには希望など一切ありませんと知らせました。そして、遂にそのキリストがこの世に来られました。十字架にかけられて三日目に復活なされたイエス様こそ、そのキリストなのです。だから、イエス様のことをただのキリストと言わないで、THE キリストと言うわけです。Jesus is The Christ. イエス様こそそのキリストなんだよ。これが神様が人類に向かって、いつの時代でも神様がおっしゃりたいことであり、神様がお知らせしたいことなのです。なにより第一に、ある意味、唯一、イエスはキリストですという喜びの知らせの背景には、今申し上げましたそのような内容が敷かれていることをぜひ覚えましょう。なので、クリスチャンの私たちは言うまでもありません。いつの場面でも、どんな時でも、どのような状況でも、それに先に引っ張られるのではなくて、大前提として「イエスがキリストならば」です。神様がお知らせしました。「イエスはキリストです」とお知らせして、それが間違いなければ、人間にとって大前提にしないといけない一番重要な前提は何かと言いますと「イエスがキリストならば」。今まで当たり前だったことが全部ひっくり返されます。今まで正解だ、正しいと思っていたことが、全然そうでないということに気づくようになります。全部がひっくり返されます。例えば、ユダヤ人は律法を守ることこそ神様を喜ばせることだと思っていたのですが、イエスがキリストならば、それは全部消えてなくなります。今までの私たちの当たり前がすべてそうでなくなるということがこの大前提なのです。残念ながら、クリスチャンでありながらも、この前提であるイエスがキリストならばが前提にならないままお祈りし、前提にならないまま何が正しいか、これが前提にならないまま今日の前に起きていることを見て、自分勝手に解釈したりします。だから、なかなか神様の答えに預かることができないのです。心の憎しみや不安からなかなか自由になりません。

1. イエス様がキリストなら、自分の水準と限界に縛られない。

イエスがキリストとしてこの世に来られてすべてを完了したことが間違いなければ、イエスがキリストならば、第一に、自分の水準と限界に縛られることなく、それを超えて勝利することができます。

イエス様がキリストならば、自分のレベルと自分の限界に閉じ込められることはなくなります。これが大前提です。もしイエスがキリストであるという信仰がなければ、当たり前自分の限界に閉じ込められて、それが悪いか良いかということと関係なく、それに縛られてそういう人生を生きるしかありません。人生の成功は絶対期待できません。しかし、幸いにイエスはキリストなのです。ならば自分の条件、水準、レベルがどうであれ、どんな状況、環境であれ、その限界に縛られることなどはもういらなくなってしまいます。

1) ヨセフは奴隷でありながら幸運な人

ヨセフは奴隷として売られて、奴隷の身分でした。奴隷の身分だったのにヨセフは奴隷の身分という条件に縛られることがありませんでした。奴隷の身分でありながら、イエスがキリストならば、それは縛られ

る条件ではありません。だから、奴隷の身分でありながら幸運な人と言われることになります。ここでいう幸運というのはラッキーという意味ではありません。奴隷の身分は間違いなけれども、他の人が知らない秘密を抱えて奥義を持っているわけです。「イエスはキリスト」が間違いなければ、今の新約の言葉で申し上げますと、ならば奴隷の身分は私を縛ることができませんという意味で幸運な人と言われるわけです。イエスがキリストならば、自分の水準、自分自身の限界などに縛られることはありません。

2) ダビデは羊飼いの少年でゴリヤテを

ダビデは羊飼いでした。一番下っ端をくぐる仕事、しかも少年でした。しかし、それが全くダビデを縛ることができません。そうでありながらダビデは、イエスがキリストならば敵の將軍ゴリアテ（しかも巨人、ジャイアントなのです）を倒すことができました。羊飼いの少年では無理なのです。皆が震えて対抗することができない状態の中で、ダビデは羊飼いであり、まだ少年でしたが、イエスがキリストならばそれが問題になりません。それに引っかかることなどありません。縛られる理由などはありません。なぜでしょうか。イエスがキリストなら。それでダビデはこのように宣言しました。「お前は剣と槍をもってかかってくる。しかし、わたしは主の御名によってお前に立ち向かう」。これはどういう意味なのでしょう。イエスがキリストならば。そういうことです。全部がひっくり返ります。私たちの当たり前は、当たり前ではありません。イエスがキリストでないから、いまだにそれに縛られているだけなのです。どんな過去があるのでしょうか。今、どんな状況なのでしょう。どのような弱さを抱えているのでしょうか。なぜそれがいちいち問題になり、引っかかるのでしょうか。そうならばヨセフは10回以上自殺してもおかしくないし、ダビデはもうとっくに諦めるしかない人生を送ってきました。しかし、聖書にはそういうことは書かれていません。不思議ではないでしょう。なぜそれがそんなに不思議でおかしいのでしょうか。私たちににとってはイエスはキリストになっていないからです。神様は人類に向かって昨日も今日も明日も百年後もこれだけをおっしゃるのです。イエスがキリストです。ならば、私たちはならばです。

3) エゼキエルは干からびていた骨に“主がご存じです”と

神様がエゼキエルに聞きました。「この干からびている骨が生き返ると信じるのか」。そこで「信じます」とも言わない。「いや、そうではありません」とも言わない。これは賢く言ったつもりではありません。エゼキエルは言いました。「主がご存知です」。どういう意味でしょうか。イエスはキリストならば。イエスがキリストならば生かされるでしょうという意味なのです。普通は考えられません。クリスチャンの私たちが普通の常識に縛られて、今までの法則に縛られて、自分の水準と限界に留まって、もはや信仰でも何でもありません。ドン・キホーテみたいにとんでもないことをやらかすという意味ではありません。イエスがキリストに間違いなければ、ならば話は変わるだろう。ならば話は違ってくるのではないのか、ということ信仰と言います。いま私は病気にかかっている四方八方から苦しめられてるきつい状況に間違いはないけれども、それで皆がつぶやいて倒れて諦めていることも間違いはないけれども、しかし、私はイエス様を信じている、イエスがキリストならば違うのではないか。10日間、断食の祈りをすることより、この信仰告白が大切なのです。そのときに目に見えない暗闇の力が砕かれて悪霊が叫びながら出ていくわけです。サタンのやぐらが崩れていく瞬間なのです。しかし、教会に通っていてもイエスがキリストであるということが分かっていないと、今日の聖書のように、そして今日は読んでいませんが、8章の最初の部分でイエス様が大勢の群衆のために食べ物を用意して食べさせるようにとおっしゃいました。すると、「こんなに多くの人を私たちがどうやって食べさせろとおっしゃるのですか」と反応したわけです。これ、何回目でしょうか。それで今日、長老さんに読んでいただきましたところを見ると、五千人、四千人、2回も食べさせる奇跡を見たでしょう。いまだに悟っていないのか。いまだに分かっていないのか。イエスはキリストということがいまだに分かっていないのか。気づいていないのか。奇跡を見るのが問題ではありません。いまだに学習してないのです。

4) 知らない、同じ質問の繰り返しに(荒野)

奇跡を見たにもかかわらずイエスがキリストということを知らない、同じ質問を繰り返し繰り返すしかありません。つまり、旧約のとき、エジプトから出てカナン約束の地に入らないといけないうちに、入れないまま荒野でグルグルグルグル同じところをずっと回っているような状況にならざるをえません。イエスがキリストということが実際に分かっていないと同じ質問を繰り返します。一番最初、五千人以上の人の時、「あなたが食べさせない」とおっしゃったときに、「今、私たちが200デナリの食事を

用意して食べさせるとおっしゃるのですか。ありえません」と言ったわけです。それで2回目があり、今日は3回目です。3回目にイエス様が同じことをおっしゃるのに同じ質問なのです。「どうやって食べさせるとおっしゃるのですか」。クリスチャンの質問がそうなのです。柳先生が青少年修練会の時にいつもおっしゃることがあります。青少年からアンケートや質問を募集してもらって、それを読んでお答えするという場面があります。その時にいつもおっしゃるのが、毎年同じ質問ばかりなんだ。メッセージを通して答えを与えたはずなのに、同じ質問を繰り返されるんだと。つまり言葉を変えますと、イエスがキリストならば知らない質問ばかりなんだという話なのです。「うちの子どもをどうすればいいのでしょうか?」「旦那さんが病気になってどうすればいいのでしょうか」。もちろん人間としてのそういう弱さに対する気持ちは充分理解できます。しかし、それは一般常識のレベルでの話であって、イエスがキリストならばもう知らない質問がほとんどではないのでしょうか。でも弟子たちはその知らない質問を繰り返して繰り返し行っているのです。無駄はありません。最終的には。しかし、霊的な事実から見たときには、無駄な時間がずっと続くわけです。同じ質問がずっと繰り返されるのです。オリーブ山でイエス様が40日の間、このイエスがキリストならばについて語りました。にもかかわらず、弟子たちは最終的に「いまイスラエルの国を再興してくださるときでしょうか」と聞いたわけです。同じ質問をずっと繰り返しています。何を食べるか飲むか、その質問ばかりなのです。うちの子どもはこうなんですけど...。その子どもが例えば良くなった。そうすると今度は健康の問題が来た。すると、健康がこうなんですけども...。ずっとその質問。進歩がありません。なぜでしょうか。人が悪いからでも問題があるからでもありません。イエスがキリストならばという大前提に立っていないからなのです。そこでイエス様はおっしゃいました。「それはあなたがたは知らなくてもいいですよ」。それはどういう意味なのでしょう。「それはあなたがたは知らなくてもいいですよ」。その質問はもう終わりにしよう。つまり、イエスがキリストならばという大前提なのです。ならばイスラエルが右に転ぶか、左に転ぶかはあなたがたの知ったことじゃないよ。Only 聖霊が臨まれると力を得て。イエスがキリストならば、いま植民地であれ、刑務所であれ、病気であれ、あなたがたがやるべきことは、Only 聖霊が臨まれると。その契約の上に立つべきではないのかとおっしゃったわけです。しかし、なかなか教会に通っていても、そういうわけにはいかないのです。イエスはキリストです。ならば、イエスがキリストならばが大前提にならないといけません。目の前に何が起きようが、私たちの前提はイエスがキリストならば、です。柳先生がおっしゃっているように問題は問題でなくなり、心配事は心配でなくてそこに答えがあり、危機はチャンスになる。これを神のやぐら、その反対を悪魔のやぐらと言うわけです。でも、私たちはいつまでたってもサタンのやぐらを愛して、問題は問題です。悪いものは悪いものなのです。失敗は失敗なのです。危機は危機なのです。何も変わらないで荒野がずっと続くわけです。なぜなのでしょう。神様がおっしゃるみことばを聞かないからです。「イエスはキリストです」と神様はそれしかおっしゃってないのです。それを心から素直に真に受けていないのです。言葉ではそういうふうには言いません。でも心では「何がイエスがキリストなのか。いまお金もないのに」「何がイエスがキリストなのか。子どもがあんなに非行に走っているのに」「何がイエスがキリストなのか。病気なのに」...なのです、私たちは。だから、その次に進むことがありません。つまり祈りなどできないのです。祈りは何でしょうか。これを超えて次に行くことを祈りと言います。今これを聞きながらも「... ???」とはてなが消えない方々がほぼ90%以上だと思いますが、なぜかという、今までの当たり前が当たり前としてその人を支配しているからです。当たり前は当たり前ではありません。

2. イエス様がキリストなら、無条件に信仰に飛び込む。

もう一つ、イエスがキリストならば、条件などつけないで信仰に飛び込むようになります。イエスがキリストならば、迷わずに理由なしで信仰に飛び込むようになります。

いまからそのような証拠を旧約聖書、新約聖書から少し取り上げましょう。

1) 旧約-キリストの契約なら無条件-創世記 22:3、I 列王記 19:21、ダニエル 3:17-18、エステル 4:16
旧約聖書は、イエスがキリストならばもちろん同じ内容でしょうけれども、まだイエス様が来ていないので、キリストの契約ならばというように話してもよいでしょう。創世記 22:2 を見ますと、アブラハムに百歳で与えられた、授かった息子イサクをいけにえとしてささげなさいと言われました。とんでもない話でしょう。しかし、22:3、翌日、アブラハムは奥さんにも言わないで、迷わないで、そのままイサクを連れていけにえとしてささげます。なぜでしょうか。なぜそういうことがあり得るのでしょうか。アブラ

ハムはそのときに悟っていました。キリストの契約が間違いなければ理由などありません。息子が死ぬか死なないか関係ない。キリストの契約が間違いなければ、これは誰でもどのような状況でも止められない。だから迷わずに条件付けしないで従いました。もしその時にアブラハムが言おうとすればたくさんあるのです。「この息子を通してキリストが来られるとおっしゃったでしょう。息子が死んだらその後どうなるのでしょうか」。いろいろ言うべきことがあります。しかし、キリストの契約が間違いなければ理由も条件もありません。信仰に飛び込む姿なのです。I列王記 19：21。エリヤがエリシャを呼んだときに、エリシャは自分の畑仕事、あるいは牛の道具など全部燃やして、それでその火で牛を焼いて皆に配りました。もう二度と戻ることはないからです。キリストの契約が間違いなければ、条件理由などなく、信仰に飛び込んでいたわけです。まず一番で申し上げましたように、キリストならば、自分の水準と限界に縛られることはない、ができれば信仰に飛び込むということは無理です。だからみな信仰ではなくて計算なのです。計算。ダニエル 3：17-18。皆さんご存知のように、ダニエルの友人 3 人が、偶像崇拝を強いられたときに「私たちはできません。炎の中に入れても、神様が助けてくださるでしょう。そうじゃなくても私たちは拝むことなどできません。構いませんよ」。死ぬか生きるか肉体的に助けてくださるかどうかという表現がありません。信仰に飛び込むわけです。頭の良い賢い人間は到底理解できないでしょう。だから、学の多い人がなかなか信仰者になれないのです。その学が知識が全く通用しないという経験、その壁にぶつかることでやっとなり砕かれて、ガラテヤ 2：20 を告白したりするわけですね。その前にイエスがキリストならばという大前提を持ってください。エステルも言いました。「もし死ぬことが必要であれば死にますよ」。死ぬか生きるかということを経験として取り上げるなどありません。これがイエスがキリストならば無条件、迷わずに、条件付けずに信仰に飛び込むという意味なのです。

2) 新約-イエスがキリストなら無条件-マタイ 11:12、マルコ 10:48、ルカ 14:26、ローマ 1:17、ヘブル 12:2

新約聖書もそうです。イエスがキリストならば無条件なのです。マタイ 11：12 を見ると、天の御国は攻める者のものなんだと。その意味がこういう意味です。計算などありません。利害関係など、そろばんをはじいたりということなどありません。イエス・キリストならば、無条件イエス様を信じる信仰に飛び込むのです。周りから見ると「あの人は頭おかしいなあ。頭悪いな」と思われるかもしれません。その人はイエスがキリストでないからまったく理解できません。しかし、イエスがキリストならば。マルコ 10：48。そこに目が見えないバルテマイという人がいました。それでイエス様が通りかかるのを見て、「ダビデの子、イエス様。私を助けてください」と叫んだ時に、周りの人々から「黙れ。お前のような人間が何を叫んでいるのか」と言われたとき、それに全く構わないで、条件などつけないで「あっ、そうか。そう言われるか」ということで諦めません。これは諦めないで必死にやるから答えられたという意味ではありません。イエスがキリストならば、条件、プライド、一切関係ありません。信仰に飛び込むわけです。彼はますます「ダビデの子よ。私をあわれんでください」と言いました。ルカ 14：26 では、弟子たちにイエス様がおっしゃいました。「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません」。どういう意味なのでしょう。家族を軽く思っただけという意味ではありません。イエスがキリストならば、家族の何かが条件になって信仰に迷うようなことなどはありえないということなのです。条件がありません。理由がありません。なぜならイエスがキリストだから。これが大前提なのです。それでパウロもローマ 1：17 において、義人は信仰によって義と認められ、信仰に始まり、信仰に進ませると言っているし、ヘブル 12：2 でも、信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないようにしなさいと言われるわけです。イエスから目を離す理由、条件などは存在しません。何があるのでしょうか。何がそんなに忙しいのでしょうか。何が大変なことなのでしょうか。何をそんなに欲しがるのでしょうか。それがイエスから目を離してもいい理由になれると思いますか。それは条件なのです。イエスがキリストならば、この大前提に立って条件などすべて崩れて、イエス・キリストを信じる信仰に飛び込みます。

3) 知らないと、条件付きで信仰を妨げられる。

しかし、イエスがキリストという福音が分かっていないと条件付きで信仰を妨げられるようになります。今日の聖書の箇所の前に、パリサイ人、ユダヤ人たちがイエス様にするしを見せて欲しいと条件を付けたのです。今までたくさん見せていたにもかかわらず、最初から信じるつもりなどないのでいちいちちよっかいを出して条件を付けました。その条件が満たされれば信じますと表ではそういう話でしょうが、信じ

るつもりは最初からありませんという表れなのです。条件付きなのです。残念なのは信者も「この問題が解決できれば教会に行きます」「生活が安定すれば献金します」「私、悪い習慣があります。これを断ち切ってから教会に礼拝に行きます。このままでは自分は汚れたものなので礼拝に行くわけにはいきません」と格好良く言いますが、全部が条件付きなのです。イエスがキリストに間違いなければ条件などはありません。条件などつけないで無条件迷わずに信仰に飛び込むはずなのです。けれども分かっていないと条件付きで信仰がいつも妨げられるということを感じて気をつけましょう。

3. イエス様がキリストなら、御言葉が生きて働く。

最後にイエス様がキリストならば、その人にはみことばが生きて働くようになります。タラップンでよく言われているように、みことばの成就を見るようになります。イエスがキリストならば。

みことばとは何でしょうか。

1) 聖餐の告白

みことばをよくまとめますと、聖餐の告白がみことばであり、

2) 信仰宣言

信仰の宣言がみことばであり、

3) 3.9.3 の祈り

3.9.3 の祈りがみことばなのです。つまりみことばは何かというと、キリストによってすべての問題は終わった。そのキリストを信じる私は祝福の神の子どもなんだ。主がともにおられる存在だ。だから自分の人生はイエスの証人として、ミッションの人生、光を放つ人生であり、神様は私を通してこの地に神の国のことを現わす計画を持っていらっしゃる。それは自分の力と関係なく、聖霊の力によって世界福音化の証人として用いられる。ならば、祈りで充分なんだ。これが神のみことばです。皆さん、耳にタコができるほど聞いたので、全部分かっていると思いますが、これが成就しないのです。自分のものになって、自分の内側で自分の人生で生きて働くものにならないといけけないのにそうでない。なぜなら、イエスがキリストなら、が弱いからです。イエスがキリストならば必ずみことばが成就するようになります。

4) 知らないと、みことばが空回りする

しかし、イエスがキリストがあいまいな場合は、みことばが空回りするのです。今日の本文の聖書の箇所がそれなのです。イエス様がパリサイ人のパン種に気をつけなさいという霊的なメッセージをしているのに、弟子たちは今パンが一個しかないのに、今私たちにパンがないことについて何かおっしゃっているのだと思ったわけです。イエス様が語る霊的なメッセージを彼らは肉体的に受け止めるので空回りなのです。みことばが成就しません。礼拝にいくら参加しても、講壇からメッセージをいくら聞いてもずっと空回りなのです。なぜでしょうか。もちろんサタン誘いの霊の邪魔なのですが、聞いている皆さんの内側でイエスがキリストということが明確になって、ならばという大前提の上で礼拝を捧げ、メッセージに耳を傾けていないからなのです。イエスがキリストならば。霊的なメッセージを肉体的に聞いて、福音のメッセージなのにユダヤ人のように文字にこだわり、律法的な感覚で受け入れるから、全部勘違いして誤解してしまうのです。だから空回りします。イエス様は神の国と義のためにおっしゃっているのに、聞く人はどうすれば、何を食べるか飲むかを期待して聞いているのでずっと空回りするのです。その理由がどこにあるのでしょうか。イエスがキリストという告白が明確に自分のものになって、「イエスがキリスト、ならば…」という大前提が刻印されていないからです。何がどうであれ、たとえ皆さんがこの世では到底許してもらえない過ちを犯したり、失敗をしたとしても、それを扱うための大前提はイエスがキリストならば、にならないといけません。皆さんの周りの人がどんなにひどい人間だとしても、その人を見てその人のことを考えるときに、自分で考えると失敗なのです。だから考えないで祈りなさいというのは、イエス・キリストならばを大前提にして、そのメガネを掛けて見ないと失敗するのです。話はみな当てはまりもったもな話になるかもしれません。事実かもしれません。でも失敗します。悪霊は事実などはどうでもいいのです。あまり事実そんなに絶対かのように取り扱ってはいけません。霊的事実があるわけです。サウル王が悪霊に憑りつかれてダビデを殺そうとしました。事実です。許せないでしょう。でも

それだけでしょうか。神様がそれを許されたわけなのです。霊の世界を見ないといけません。聖書は霊の世界のお話なのです。なのに肉のことばかり、常識、道徳、倫理、正しいかどうか、是々非々、こういうことばかり聞いているからみことばが空回りするのです。残念ながら。キリストの血潮によってきよめられて神の子どもになっているにもかかわらず、空回りするのです。

今日のメッセージを握って、だからこそ改めてこれからも一人で静かな時を持って、また自分の人生を取り上げてイエス様はキリストと告白しましょう。そして、その告白の上に立って前提を変えましょう。何がどうであれ、道徳や是々非々や常識や自分の感情などは前提になってはいけません。今までの皆さんの経験、家族に対して、奥さんは旦那さんに、旦那さんは奥さんに、子どもは親に対してなんで？と思うのは全部自分の基準でしょう。それは真理でもなんでもないので。だからやられるのです。正しい話をしてやられるのです。実は正しくもなんでもないけれども。前提はそれではありません。夫婦が暮らすと、せっかちな人間もゆったりとした人間もお互いが全部悪いのです。どっちが悪いのでしょうか。それは悪いか良いかのレベルではないでしょう。それ以上のことがあっても引っかかってはいけないのに。なぜかという、自分の経験が前提なのです。自分が自分の家庭で教わって教育された家訓が何かわかりませんが、そういうのはちりあくたのようなものなのに、そういうのを取り上げて、なんでこの通りではないのと30年、50年経ってもクリスチャンなのに前提がずれているのです。私たちの前提は「イエスがキリストならば」。今まで100%正しいと思っていたものもちりあくたとしてゴミ箱に捨てる勇気を持つのです。それを柔和な人と言います。だからイエスはキリストと告白しましょう。

それでイエスがキリストならばという大前提を持って、もし私に縛られている何かがないのかと吟味しましょう。そして、信じる信仰を邪魔する条件付きというものが私にないかということ吟味しましょう。それから、みことばより自分の考えが先走っているのではないのかということ吟味しましょう。それを吟味すると必ずここにたどり着くようになります。それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。イエスはキリストでしょう。ならば Only 聖霊が臨まれると刑務所なのか、Only 植民地なのか、Only 病気なのか、Only 子どもに問題があるのか、Only。ここに立たされないと新約が始まりません。ここに立ってやっと14節の祈りに専念する、その祈りの信者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。今日も雨の中で兄弟姉妹が神のいのちのメッセージを聞くために、主を賛美するために礼拝堂に集まり、ともに礼拝を捧げる幸いをありがとうございます。どうかイエスがキリストならばが私たちの大前提として刻印されて、それが身に沁みつくことができるように聖霊様が働いてください。私たちの思い、そして心の魂のすべてに、御座の力が光が照らされることで、癒しの祝福が豊かに現れますように。サタンのやぐらが崩れて神のやぐらが立つように、聖霊様がひとりひとりに豊かに働いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン